



国際会長主題 「より良い明日のために今日を築こう」 (Building today for a better tomorrow) Jennifer Jones (オーストラリア)

アジア太平洋地域会長主題	「アクション」 (Action)	田中 博之 (日本)
東日本区理事主題	「勇気ある変革、愛ある行動！」	山田 敏明 (十勝)
東新部部長主題	「心を尽くして、YMCAのために」	小川 圭一 (東京世田谷)
クラブ会長主題	「クラブライフを楽しもう」	朝倉 正昭 (東京世田谷)
	Enjoy your club-life!	

会長 朝倉 正昭	2020年4月会報	会計 小原 武夫
副会長 松井 直樹	強調テーマ	直前会長 寺門 文雄
書記 松井 直樹	* L T *	担当主事 池田麻梨子
	(リーダーシップ トレーニング)	

↑今月の聖句

一人より二人のほうが幸せだ。
共に苦勞すれば、彼らには幸せな報いがある。
たとえ一人が倒れてももう一人がその友を起こしてくれる。
一人は不幸だ。倒れても起こしてくれる友がいない。
また、二人で寝れば暖かいが一人ではどうして暖まれよう。
たとえ一人が襲われても二人でこれに立ち向かう。
三つ編みの糸はたやすくは切れない。

(聖書協会共同訳)

Two are better off than one, because together they can work more effectively.

If one of them falls down, the other can help him up. But if someone is alone and falls, it's just too bad, because there is no one to help him.

If it is cold, two can sleep together and stay Warm, but how can you keep warm by yourself?

Two people can resist an attack that would Defeat one person alon. A rope made of three Cords is hard to break.

~Today's English Version (ed.2)

旧約聖書 コヘレトの言葉 4章 9-12節 (小川 選)

新型コロナウイルスの
感染者数が急増
爆発的な感染拡大の恐れが出て
首都圏をあげての危機対応に
外出自粛
人混みへの不要不急の外出、イベント開催、
参加自粛
多くの人の密集、密封空間、
近距離での会話
条件が重なる場を避けるように
感染の発見が難しい若年層の慎重な行動
を促し在宅勤務、テレワークを
ということで
4月の例会は 休会ということに
みなさま ご協力をお願いします。

3月のデータ	会員在籍 11名	例会出席者 3/19日(木) 名	3月のBF 切手 0g 現金 円 累計切手 0g	ニコニコファンド 3月 0円 年度計 56,879円
	出席率 %	メネット 名 メイキャップ 名 ゲスト 名 ビジター 名 合計 名		
	第2例会 ()	すずらん会参加者 日(木) 名 ゲスト 名 スタッフ 名 合計 名 新型コロナウイルスの影響で	東京世田谷ワイズメンズクラブは 2019年10月31日 社団法人日本 キリスト教海外医療協力会 (JOCS) に年会費 10,000円を納入し継続しま した。	注: JOCS 献金記録の掲載 すずらん会やコミュニティコンサート ではかねてよりJOCSへの応援を行って いる。 使用済み切手とワンコインの 献金など。

✧ YMCA すずらん会も休んでいます。

想定外の厳しさですね。

地球規模のパンデミック感染爆発、スペイン風邪やペスト・黒死病など体験していない私たちです。YMCA すずらん会（経堂緑岡教会）下北沢すずらん会（東京都民教会）ボラセン歌声ひろば（世田谷ボランティアセンター・三軒茶屋）図形音符・アカペラ四部合唱の会、定期開催を続けてきましたが、この3月からお籠り状態です。また、世田谷区退職校長会、代田地区社協の集い、ひだまりゆうゆう会館などの予定も、すべて中止や先の見えない延期状態です。

それでも、すずらん会の開催を待っている皆さんから励まされる事もあります。すずらん会に参加したい、元気で居てくださいねと・・・今月の聖句に選んだ箇所は、旧約聖書に収められている知恵文学と称されるコヘレトの言葉です。その1章書き出しの部分では「コヘレトは言う。空の空 空の空、一切は空である（1章2節）と はじまりますが、ワイズの仲間は家族に準ずる貴重でかけがえのない「友」として、共に支えあい励ましあって、厳しさを乗り越えて参りましょう。

聖書ではない格言を一つご紹介します。野戦用の塹壕の中には無神論者はいない。（デール・カーネギー）

掲載していただいた写真は、すずらん会の歴史。

みんな、プロジェクターで映し出された歌詞を見ながら大きな声で歌っています。伴奏者は最近5年くらいお世話になっているアルマムジカの仲間たち。場所も南センターの三階、経堂緑岡教会、東日本大震災の後に何度も通った宮城県石巻市や女川でのYMCA歌の広場です。そして、クラブメンバーの佐藤百合子さんは、この活動で入会を志願なさいました。三軒茶屋のプログラム作りと伴奏は、佐藤さんの世界。継続は何とかで、年間延べ7千人の方々と17年間も歌ってきたしるしです。

（小川 記）



※ 東京 YMCA 保育園「ねがい」の奉仕活動

ガーデニング報告

今、新型コロナウイルスの感染拡大により死への恐怖で世界中の人々をパニックに陥れています。

私達の生活環境も激変し忍耐の生活を強いられて、いつ収束するかも分からない不安に慄き乍ら一日も早く『平安な日々を与え給え』と皆さまの安全をお祈りしています。

時は春とはいえ桜満開の素晴らしい季節に、32年ぶりとなる雪が降り花盛りを謳歌しているプランターの水仙や、チューリップも雪の重みに耐えかねて、首を折られ無残な姿をしていました。しかし『花咲か爺さん』は夏の花壇に向けて挑戦を始めています。

4月よりの新入園児を迎える為に、3月中に作業を行い、あとは種まきを待つのみとなりました。

*作業を内容：

フェンス内側の踏み石・種蒔き地の開墾作業

3/11 (水) ≪晴≫ 参加者：小原、川嶋、寺門、鶴 (YMCA) 4名



成城大工センターにて買い付け：小原君の車で運搬

①敷石ブロック 15個 ⑤鹿沼土 1袋
②プランター(大) 3個 ⑥腐葉土類 5袋
⑦苗木 ブルーベリーなど

③軽い碎石 3袋 3本

④黒土 2袋 ⑧花の種 向日葵等 10種類

小原君：練馬・花卉栽培農家よりジュリアンなど 50鉢

「ねがい」にて 夕暮れまで作業

3/18 (水) ≪晴≫ 参加者：小原、寺門、鶴 (YMCA)

3名



成城大工センターにて買い付け

①プランター用軽石 1袋 ④化成肥料 1袋
②砂 2袋 ⑤花木 カイドウ 1本
③敷石ブロック追加 5個 ⑥サフィニア苗 5鉢

「ねがい」にて 夕暮れまで作業

(寺門 記)

「ねがい」たより

新型コロナウイルスの影響で、園によっては2・3月中止になった行事もあったようです。保育園「ねがい」は、2019年度幼児(3~5歳児)クラスの人数が少ないこともあり、発表会は幼児クラスの子どもと家族のみ、卒園式は1名の卒園児とその家族、3・4歳児5名、職員で短時間にて行うことが出来ました。2020年度4月、入園式は中止としました。新入園児15名を迎え56名にて開始する予定でしたが、5月から通いますというご家庭もいらっしゃいます。これからも新型コロナウイルスの動向をみながら運営をしていく予定です。

ワイズメンズクラブの方にも来園時に体温を計ることや、手洗い消毒のお願いをすることになりますが、ご協力の程よろしくお願い致します。

3月に花の植替えとビオトープ横の花壇の整備、北口玄関前のプランターの設置をいただきありがとうございます。在園児、職員が朝保育園に来た時、花に迎えられて一日気持ち良く過ごすことが出来ています。本当にありがとうございます。

(高橋園長 記)



※ 会長通信 2004

私は、1942年生まれで今年の誕生日に78歳になります。その78歳の生涯で太平洋戦争とその終戦、その後の苦難、又、好不況の波をいくつも経験して来ました。2008年のリーマンショックは、1920年に起きた大恐慌をしのぐ強烈な被害を世界各国に及ぼしましたが、自身もその発生地である米国で、身をもってその被害と影響の大きさを経験しました。2011年の東日本大震災は、津波により被災された岩手、宮城、福島の三県は言うに及ばず福島原発の被爆により、今もって復興の目途が付かないという意味では、地球規模でその影響が続いているので、私の本意ではありませんが、日に日に風化していくのも悲しいけど、現実です。

この新型コロナウイルス禍も同様な経過を辿るのでしょうか？ただ東日本大震災と違い、コロナウイルス禍の影響は全世界的に、個人の生活、社会生活に及んでおり、一時的な現象ではなく、今後の全世界的経済、社会活動に甚大な影響をもたらすものと私は考えます。3月26日のNHKのNews 9で新型コロナウイルス禍について京都大学の山中伸弥教授との10分程のインタビューがありました。山中教授は冒頭、自分は疫学の専門家ではないので、自分の発言は医学者ではあるけど、専門家ではないので間違いがあるかもしれないと前置きをしたうえで、お話を始められました。山中教授によれば、医学界ではその進化は日進月歩で、今迄は不可能とされてきた治療法が日々開発が進んでいるそうです。山中教授にもそういう情報が毎日の様に届き、そのような情報を目にする度に、新型コロナウイルス禍の世界的な広がりを痛感させられると仰っていました。インタビューの中で印象的だった言葉が幾つかありました。1つは新型コロナウイルスとの闘いは短距離レースではなくマラソンレースであるという事です。もう一つは、それに関連し、新型コロナウイルスとの闘いはしばらく続いて、人によっては、この闘いを諦めて、自分は自分の生き方を続けるという人が見られるが、そもそも人と社会は密接に相互依存して、出来上がっているのだけれども、その事を忘れてしまっている人がいるのだと仰っていました。山中教授はどこの国とは名指しをしませんでしたが、これは今の新型コロナウイルス禍での外出禁止要請に対する日本の一部の人の反応を指されているのだと、私は感じました。この反応は海外のメディアでも取り上げられていました。

ではこの反応は日本だけの事かといえば、私は日本だけではないと思います。例えばある国の大統領は自国ファーストを唱え、自国が繁栄すれば他の国の事は、構わないという現象があります。又欧米諸国で大きな政治問

題になっている移民排斥運動も、今のそれら国々の成り立ちを考えれば、大変利己的だと考えざるを得ません。私見では、今先進諸国では多かれ、少なかれ同根の問題に直面しているのではないのでしょうか？ここで山中教授が冒頭に言われた新型コロナウイルスの問題はマラソンレースで、世界的な広がりを考えれば、世界的な視野で見直さなければ、そこら中で再発の危険があるのです。永久に世界中の交流を遮断する事は出来ません。こんなことを山中教授のインタビューを見て感じました。

(朝倉 記)

※ YMCA NEWS

2月23日～3月1日、松本数実氏（国際事業部統括）他、計4名の職員がミャンマーYMCA 同盟及びネピドYMCAを訪問した。

ネピドYMCAが行うモバイルクリニック等のプログラムの視察、ネピド近郊の村訪問、植樹や道路舗装のボランティアワーク、役員や教会に連なるユースとの交流の時間を持った。今後、ユース同士の交流やスタディツアー実施の可能性について検討していく。

推薦を受けた16歳から35歳のボランティアリーダーが登録され「日本YMCAユースボランティア」として、安田真菜さん、長谷井彩香さん、中山美登里さん、田中達也さん、赤堀瑛奈さんの5名が南センターから認証を受けた。ボランティア認証カードとボランティア手帳が手渡された。

今年は12名のリーダーたちが南センターをいったん「卒業」という形で節目を迎え、今までの献身的な諸活動に感謝をした。

今後の主な行事日程

- ・4月12日まですべてのプログラム中止
- ・チャリティーゴルフ 4月16日 中止
- ・第18回会員大会 5月23日 (山手センター)
- ・東京YMCA創立140周年感謝礼拝 5月30日 (日本基督教団銀座教会)
- ・第34回インターナショナル・チャリティーラン 9月13日 (都立木場公園)
- ・国際協力一斉街頭募金 9月26日 (新宿駅周辺)

杉田裕樹さんに3月23日(月)男児が与えられ、悠翔(はると)さんと命名されました。母子共に健康とのことです。また杉田さんは4月1日より山手センターへ異動となります。皆さんに直接ご挨拶する機会が無く残念がっていました。代わりに感謝を持ってご報告させていただきます。